

第8回世界水フォーラムにおける浄化槽展示について

公益財団法人日本環境整備教育センター 浄化槽システム国際協力センター

2018年3月18日から23日にかけて、ブラジル連邦共和国の首都ブラジリアにおいて第8回世界水フォーラムおよび併設のエキスポが開催されました。公益財団法人日本環境整備教育センター浄化槽システム国際協力センターは、環境省の委託業務の一環で、エキスポにおいて浄化槽に関する展示を行い、日本の優れた分散型汚水処理技術である浄化槽に関する情報発信を行いました。

1. 世界水フォーラムの概要

世界水フォーラムは世界最大規模の水に関する国際会議で、世界水会議（WWC）と開催国との共催で、3年に1回開催されており、各国政府代表が多数参加する閣僚級国際会議が開催されるなど、世界の水問題に対する国際社会の動向に大きな影響を与えている国際会議です。また、世界水フォーラムの開催期間中は、水に関する技術や製品などを展示するエキスポが併設されており、世界水フォーラムに参加する世界各国の政府、大学・研究機関および民間企業等の関係者が多数来場します。



写真1 世界銀行の展示ブースにて

2. 第8回世界水フォーラム

第8回世界水フォーラムでは、2030年を達成年度とする持続可能な開発目標（SDGs）、第7回世界水フォーラムの16のテーマに基づく実施ロードマップおよびその他のプロセスを勘案し、6つの重要テーマと、3つの分野横断テーマが設定され、会期中は約300のセッションが開かれました。また、第8回世界水フォーラムのエキスポでは、「持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた具体的な取り組みと貢献」と題して日本政府主催のパビリオンが設けられ、日本の22の企業および団体が展示を行いました。エキスポ主催者の公表では、87カ国および団体がエキスポに出展し、会期中は約11万人が来場したことになります。



写真2 エキスポ会場の国立競技場「マネ・ガリンシャ」

3. 浄化槽に関する展示

日本政府主催パビリオンの環境省展示スペースに、浄化槽の構造や処理フローが視覚的に理解できる浄化槽模型を展示し、来場者に対し浄化槽の処理性能や処理原理、維持管理の方法および他の汚水処理施設との違いなどについて説明を行いました。

また、環境省が作成した日本のし尿処理と分散型汚水処理システムを紹介するパンフレット「Night Soil Treatment and Decentralized Wastewater Treatment Systems in Japan」および一般社団法人浄化槽システム協会が作成したパンフレット「To secure the comfortable life



写真3 浄化槽展示の様子

environment」を用い、来場者に対し日本の浄化槽システムについて説明し、様々な質問に対応しました。さらに、浄化槽の特徴や構造、浄化槽に関する法制度や維持管理の仕組みについて、公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)が「環境省平成29年度アジア水環境パートナーシップ事業調査研究業務」により作成したに展示パネルにおいても紹介を行いました。

4. 来場者の反応

浄化槽模型に対する来場者の関心は非常に高く、浄化槽に関する説明資料を求める人が多かったため、日本から持参した環境省パンフレット(約200部)と浄化槽システム協会のパンフレットは2日目の午前中までに全て配布を終えてしまいました。そのため、それ以降に環境省パンフレットが欲しいという希望者には、連絡先情報を提供してもらい、後日、環境省パンフレットの電子データをメールで配信しました。その数は、25カ国から176名(うち、ブラジルから131名、その他の国から45名)に上りました。

また、浄化槽に関して個別に情報交換を希望する来場者からは名刺を受領しました。その数は24カ国から111名(うち、ブラジルから73名、その他の国から38名)でした。

これらの状況を整理すると、第8回世界水フォーラムにおける浄化槽の展示には、パンフレット配布数(約200部)、受領名刺数(111名)、環境省パンフレット希望者数(176名)から、3月18日~22日までの5日間でおよそ1,000名が来場したと推定されます。

来場者からの主な質問は、浄化槽の価格、処理水の使用用途、耐用年数、維持管理方法、浄化槽の処理能力の上限、ブラジルでの入手方法、等でした。また、自国における浄化槽のモデル設置や、日本企業との浄化槽ビジネス展開に関する要望や関心についても意見が寄せられ、ブラジルは日本から地理的に遠い国ではありますが、必要な環境さえ整えば、同国に浄化槽が普及するポテンシャルは非常に高いと感じられました。

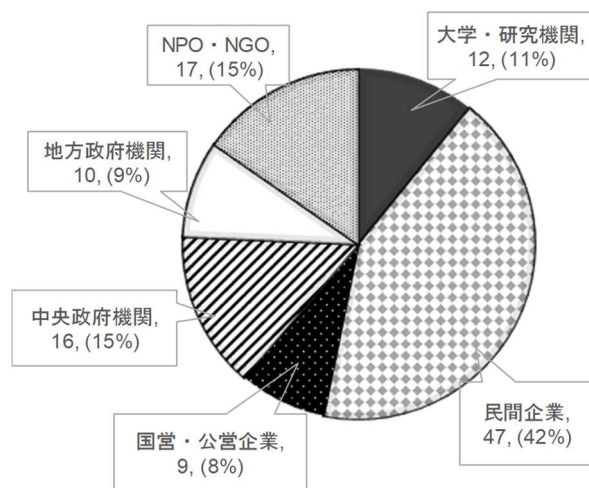


図1 名刺交換をした来場者の所属先内訳

5. 各国メディアによる取材

浄化槽の展示には絶え間なく来場者が訪れる状態であったため、メディアによる注目も集めました。

ブラジル最大のテレビ局である、ヘジ・グローボ(Rede Globo)や、モロッコ王国のテレビ局2M-TV、ブラジリア連邦直轄区の放送局であるブラジル・コミュニケーション・カンパニー(Empresa Brasil de



写真4 テレビによる取材の様子

Comunicação)など、各国の主要なメディアによる取材を複数受けました。

これまでブラジルには浄化槽に関する情報がほとんどもたらされてこなかったこと、また、国内における汚水処理に対する需要の高まりを背景に、浄化槽の展示が好評であったと考えられます。